



はぐくみ

安城中部小学校 学校通信

令和7年7月号 6月27日



時代に合わせて

安城中部小学校長 稲留 雄一

2時間目の後の休み時間。男の子3人が職員室に駆け込んできました。「ハチがいた。スズメバチがいた。」と私に報告しながら、その証拠としてタブレットで撮影したオオスズメバチを見せてくれました。いこいの森の木にいたとのことでした。一緒に向かってみると、話してくれた通り2匹のスズメバチがクヌギの木の根元の樹液を吸っていました。いこいの森に入らないようにみんなに伝えてと3人をお願いすると「憩いの森には入っちゃいかんぞ。」と大きな声で叫びながら3人は教室に戻っていきました。殺虫剤でハチを退治し、お昼の放送でもいこいの森に入らないように全校に呼びかけました。朝・昼・下校時にクヌギの木を見ましたが、その後は見かけません。

気になったのは、タブレットの写真です。休み時間にタブレットをもって外で遊んでいたのでしょうか。後日、本人に聞いてみたところ、「観察しようと思った」とのこと。スズメバチが危険であること。近づいてはいけないこと。それでもじっくり見てみたいという好奇心。その結果がタブレットによる撮影だったのでしょうか。タブレットを導入して4年ほどが経ちますが、タブレットの特性を生かし、道具として使えるようになってきているのでしょうか。時代だなあとふと思いました。子どもたちの言うことを私が信じないと思われ、証拠として撮影したのではないと思いたいですが…。

時代だなあと言えば、ここ数年「ペットボトル症候群」という言葉を耳にします。私たちが子どもの頃は聞いたこともなかった言葉です。6月の突然の猛暑。梅雨はいつだったのか。夏の訪れは何月からだったのか。私自身の季節感がずれてきてしまっているように感じています。気温の上昇とともに、スポーツドリンクや冷たいジュースを飲む機会が増えます。スポーツドリンクの適度な摂取は熱中症予防に効果的とされていますが、一方で、重症化すると意識障害にもつながる可能性があるそうです。

調べてみますと、ペットボトル症候群は、正式には「清涼飲料水ケトosis」と呼ばれており、ジュースやスポーツドリンクなどの甘い飲み物を大量に飲み続けることで急激に血糖値が上昇し、重篤な高血糖状態になる病気のことなのだそうです。

子どもたちの健康を守るのは大人である私たちの役目です。しかし、私たちの子どもの頃とは環境も状況も異なっていることは十分に認識する必要があると思いました。しかし、子どもたちの前にある小さな障害まで大人が先回りして全て取り除いてしまうと、子どもたちは自分の力で危険を察知し、回避する力を身に付けることができないのではないかという不安もあります。「子どもに寄り添って」とはよく聞く言葉ですが、小さなうちは手を引いて前を歩く。大きくなってくれば、後ろに回って子どもの行く先を見守り、子どもたちが安心して前に進めるような存在になる。そんな寄り添い方が必要なのでしょう。子どもをよく見て。時代をよく見て。時代に合わせて。